

少年雑誌の名編集者

加藤謙一 文庫を開設

弘大図書館 記念碑も建立

弘前が生んだ少年雑誌の名編集者・

加藤謙一さん(1896～1975年)

の功績をたたえ、「加藤謙一文庫」を「母校」の弘前大学附属図書館に開設。併せて記念碑も建立。9月7日開設式と除幕式が行われた。

加藤さんは、1917年に県師範学校(現弘前大学教育学部)を卒業後、市内の小学校教員となったが、雑誌の

編集者を目指して上京、講談社に入社した。22年に「少年倶楽部」の編集長

に抜擢され、発行部数を伸ばした。

45年、取締役就任したが、太平洋戦争終結に伴い退社。48年に学童社を

興し創刊した「漫画少年」で新人の発掘と育成に努め、手塚治虫、藤子不二雄、赤塚不二夫、松本零士といった日本を代表する漫画家を育てた。

文庫開設式には、加藤さんの四男丈夫さん(71)も21日あもり産業支援センター理事長IIをはじめ弘前大学、ペンクラブ会員ら関係者約80人が出席。

遠藤正彦学長が「先輩方の業績を調べていたら真っ先に加藤謙一さんの名前が見つかった。漫画という雑誌を通して子供の教育に果たした役割は、今もってはかりしれないものがある」と功績をたたえた。

記念碑除幕式で丈夫さんは「父は教員を少し勤めた後、22歳で家を出たのでよ

り故郷の思いが強かったようだ。子供は国の宝だが、父の生涯変わらない信念だった。父の出発点の言葉「なかよし」を記念碑に刻んでいただき、こんなにうれしいことはない」とお礼を述べた。

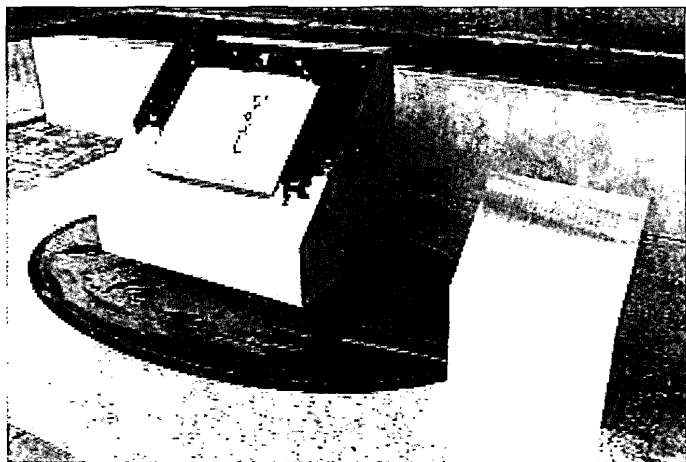
また、同館の長谷川成一館長は「編集者側から見たいコレクションは類を見ないユニークなもの。漫画研究に寄与できればと思っ

ている」と期待を寄せていた。

同館には加藤さんが関わった「少年倶楽部」「野球少年」「漫画少年」などのほか、貴重な遺品や資料263点が寄贈された。一般の閲覧もできるが午前10時から午後4時45分までとなっている。



テープカットで文庫開設を祝う(右から加藤丈夫さん、遠藤学長、長谷川館長。下の写真は加藤謙一さん)



建立された記念碑の「なかよし」